

P1 ····· 目次 P2····· 院長挨拶

P3-4····· Qスイッチルビーレーザーによる

良性色素性疾患治療の紹介/

肝硬変・肝がん治療後の連携パスのご紹介

P5-6····· 認定看護師のご紹介

赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重し、 質の高い医療を提供します

- - 1. 患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくります
 - 2. 急性期医療を中心にして診療を進めます
 - 3. 救急医療の充実に努めます
 - 4. 地域の医療機関等との連携を推進します
 - 5. 国内外の災害時の医療救護活動に貢献します
 - 6. 職員の教育、研修を充実させます
 - 7. 健全経営に留意して、その結果を社会に還元します
- ■私たちは患者さまの権利を尊重します
 - 1. 適切な医療を受ける権利
 - 2. 医療に関して知る権利
 - 3. 医療行為を自分で選ぶ権利
 - 4. プライバシーを保証される権利
 - 5. 人権を尊重される権利
 - 6. セカンドオピニオンを受ける権利







院長 牧野憲一

今、地域連携は新しい時代に入ろうとしています。それは、少子高齢化が急速に進行する中で医療資源のみならず、介護・福祉も含めた社会資源を有効に活用することが求められているからです。

各医療機関は地域医療における自院の役割を確認し、その役割をしっかりと担っていくことが求められています。旭川赤十字病院は自院の地域での役割を救急医療を主体とした高度急性期医療と考えています。この役割をしっかりと果たすことで道北地区の人々の健康管理に貢献していくつもりです。

今年度旭川赤十字病院はいくつかの取り組みを予定しています。

1. 外来患者の一部制限

救急医療を維持するために、一部の診療科で紹介状のない一般外来患者の受け入れを制限し、紹介状持参患者及び予約患者に限定します。すでに整形外科では実施していますが今後、他の診療科でも実施していきます。旭川赤十字病院への受診を勧める際には必ず紹介状(診療情報提供書)の作成をお願いします。また、可能であれば地域医療連携室を利用しての診療予約を行って下さい。これにより患者さんの診療までの待ち時間が短くなります。

2. 320列CTの導入

今年3月に320列CTが稼働します。高速スキャンと低被曝線量に貢献します。また、3D-CTAの精度が高まりますので狭心症を始めとする冠動脈病変の診断に大きな力を発揮します。冠動脈病変が疑われる患者さんを是非ともご紹介下さい。

3. 地域連携パスの普及

今まで脳卒中と大腿骨頸部骨折の地域連携パスを運用してきました。これらは当院からリハビリテーションの病院への一方通行型パスでした。今後はこのパスに加えて、かかりつけ医との間の循環型パスの普及を目指します。脳卒中あんしん連携ノートを始めとして、糖尿病、がん、心疾患などで実施する予定です。

4. 退院支援の推進

一人暮らしや老々介護の老人が増えています。また、当院入院患者の7割が70歳以上となっています。これらの患者さんが退院後安心して地域で生活するためにはかかりつけ医のみならず、訪問看護、介護サービス、福祉関係者の協力が必要となります。このような連携協力体制の構築を推進します。

今後とも旭川赤十字病院を宜しくお願い致します。

Qスイッチルビーレーザーによる 良性色素性疾患治療のご紹介

形成外科 山本 慶輝

Qスイッチルビーレーザーとは、皮膚のメラニン色素や異物の色素に選択的に反応し、これを破裂、減少させるレーザーで、母斑(あざ)、シミやイレズミ、外傷性異物などの治療を効果的に行うことができます。

この治療は、20数年前より国内で開始され、治療方法、治療効果ともほぼ確立されています。また、特徴の一つに瘢痕形成などの副作用が非常に少ないという点が挙げられます。

当院では、平成24年10月より、日本製で性能に定評のあるニーク社製Qスイッチルビーレーザー 治療装置IB101を導入し、治療を開始致しました。

治療は通常、外来通院、局所麻酔下にて行いますが、当院の特徴として、乳幼児の比較的広範囲の母斑の治療などで、入院・全身麻酔が必要な症例への対応も可能です。

以下、代表的な色素性疾患のレーザー治療につき、ご紹介致します。

・太田母斑

太田母斑は顔面に生じる代表的な青あざで、顔面以外に生じた場合、異所性蒙古斑とされます。いずれもQスイッチルビーレーザーが治療法の第一選択となります。数か月ごとの複数回のレーザー照射が必要となりますが、瘢痕形成を来すことなく、確実な治療効果が期待できます。



・扁平母斑

生後間もなくより生じることの多い扁平な茶あざで、全身性に生じます。メラニン色素の局所的な産生亢進が原因であるとされています。Qスイッチルビーレーザー照射で、一旦は色調の改善が認められることが多いですが、再び色素の産生が開始されると、再発するとされています。効果が予想しにくいこともあるため、まず小範囲のテスト照射をおすすめすることがあります。

・色素性母斑・黒子

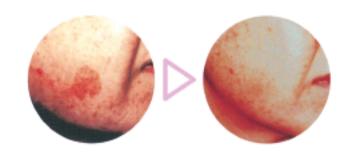
扁平な黒色調のあざもしくは黒子で、悪性腫瘍の疑いのないものは、レーザー照射が治療の選択 肢となります。母斑細胞の存在部位等により治療効果には差があり、複数回の治療を要することも あります。ルビーレーザーが選択的にメラニン色素を破壊するという特徴により、手術をせずに色 を薄くしたいという患者さんに適応となると考えられます。

· 外傷性色素沈着症

外傷後に皮内に残留してしまった土や砂などの異物粒子をレーザーでより細かい粒子に分解することにより、生体による吸収を促し、色素沈着を改善するとされています。残留異物の量などにより、1回の照射で色素沈着が消失する例や、複数回の照射を要する例など、経過には個人差があります。

・シミ・ソバカス

最も一般的なシミである老人性色素斑の場合、 通常1回の治療で過剰なメラニン色素は殆ど除 去されますが、残留が認める例もあり、必要に応 じ3か月程度の間隔をあけて、追加照射を行う場 合もあります。ソバカスについても、他の治療法 に比してより確実に色素を薄くする効果がある とされています。



・イレズミ (刺青)

外傷性色素沈着症と同様の機序で、皮内の色素を減らすことができます。色素の種類によって、 レーザー光の吸収に差があり、黒・緑・青色系の色素の治療効果が高いとされています。通常複数 回の治療が必要です。場合によっては、10回以上照射することもあり、色素によっては完全に消え ないこともあります。

一部の母斑については、早期からのレーザー照射がより効果的との報告もありますため、まずは ご相談いただければと思います。

なお、太田母斑、異所性蒙古斑、外傷性色素沈着症、扁平母斑のレーザー治療は健康保険が適応 となります。上記以外の、シミや故意に入れたイレズミ等の治療は、基本的に自費診療となります。 費用については当院までお問い合わせ下さい。

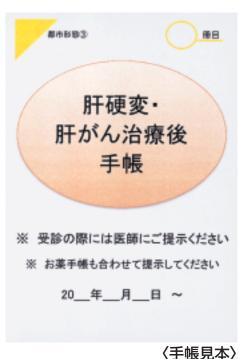
肝硬変・肝がん治療後の連携パスのご紹介

肝硬変症例は肝細胞癌治療後の症例は、発癌あるいは肝がん 再発の危険性が高く、定期的な画像検査を行いながら経過観察 することが大変重要です。一方、多くの症例は自覚症状に乏し く日常生活には支障ないことが多いため、頻回に専門医療機関 にかかる必要性は低く、通院しやすいかかりつけ医療機関での フォローが好都合です。

そこで、このような病態の症例に関して、専門医療機関とか かりつけ医療機関の間で連携をとって、日頃の診察や血液検 査・内服薬処方などをかかりつけ医で継続しながら、定期的な 画像検査をもれなく行うように、そしてその診療情報を簡便に 提供しあえるように、工夫し作成されたのが、医療連携パスで す。

この連携パスが適応になるのは、肝硬変(原因は問わず)の 症例、および肝細胞癌治療後の症例です。当院から各医療機関 にご紹介する際は、患者様にパスの主旨をご説明し、持参して いただく手帳をお渡しします。また専用の紹介状フォームを

消化器内科 長谷部千登美



使って、情報提供をさせていただきます。

また、各医療機関において、このパスが適応になると思われる症例がありましたら、ご紹介をいただくことも大歓迎です。

かかりつけ・専門病院の連携の仕方



旭川赤十字病院 認定看護師のご紹介

■ 集中ケア認定看護師の活動

今号では、集中ケア認定看護師や当院のRST (Resperatory Support Team) の活動をご紹介させていただきます。

集中ケア認定看護師は、2012年12月現在、全国に751名、その中で北海道に32名、道北地域では4名が登録されています。

集中ケア認定看護師の主な役割は、①生命の危機状態にある患者の病態変化を予測した重篤化の予防、②廃用症候群などの二次的合併症の予防および回復のための早期リハビリテーションの実施(体位調整、摂食嚥下訓練等)です。当院には2名の集中ケア認定看護師がおり、旭川赤十字病院の救急救命センターとして機能するICU・CCU病棟とHCU病棟に勤務し、救急度や重症度の高い患者への適確なアセスメントとケアに努めております。

また、RSTのメンバーとして、医師、理学療法士、臨床工学技士とともに、人工呼吸器装着中の 患者の早期離脱に向けたケアに取り組んでいます。

当院の集中ケア認定看護師の具体的活動内容を①~⑤にお示しします。

①呼吸ケアラウンドの実施

一般病棟での人工呼吸器管理中の患者に対し、医師、理学療法士、臨床工学技士、病棟スタッフとともに早期離脱に向けたケアについて検討しています。

②呼吸管理の職員教育

当院の呼吸療法認定士と協力し、職員対象として年10回、呼吸管理に関する勉強会を実施しています。地域の医療職の方々の参加も多くなってきています。その他、当院の医療安全推進室や感染管理室で企画される研修会でも勉強会を実施しています

また、看護部の教育委員会の協力を得て、看護職員を対象とした呼吸のフィジカルアセスメント研修や人工呼吸器装着中の患者の看護体験も実施しています。

③人工呼吸ケアの看護手順の改訂

人工呼吸器装着中の患者が安全で安楽に看護を受けることができるようマニュアルの見直し、改 訂を行っています。

4院内からの集中ケアに関する相談機能

生命の危機状態にある患者へ最良のケアを提供できるよう、院内職員から、特に人工呼吸器装着 中のケアや肺炎予防策等の相談を受け、適時支援しています。

5院外活動

集中ケア認定看護師としての様々な活動をまとめ、集中治療医学会、呼吸療法医学会で学会報告 をしています。また、地域での研修会や看護学校等でのフィジカルアセスメントや肺炎予防策への 講演活動を行っております。

皆様の施設で、人工呼吸器ケア、フィジィカルアセスメント等の御相談がございましたら、地域 医療連携室を通じてご相談下さい。

	氏名(資格取得年)	分 野	コンサルテーション可能な項目
25	大塚 操 (2004年取得)	・集中ケア	・観察(フィジカルアセスメント) について・人工呼吸器装着中の看護について・気管吸引について・体位ドレナージについて
	澤田 ますみ (2009年取得)		

地域医療連携室からのお知らせ

平成25年1月より CT・MRIの共同利用予約枠が増えました。少しでもご希望に添え るように予約調整してまいります。

MRI検査では、3テスラもご利用いただけます。申込書に"3テスラ希望"とご記入く ださい。また、造影検査(CT·MRI)もご利用いただけます。(予約申込時にBun値・Cre 値と所定の同意書等の記載が必要です)

共同利用に関してご不明な点・ご質問等がございましたら、地域医療連携室までお問い合 わせください。

発行/旭川赤十字病院 地域医療連携室 〒070-8530

旭川市曙 1 条 1 丁目 1 番 1 号 TEL: 0166-22-8111(代表)

TEL:0100-22-8111(1(表) TEL:0166-27-8585(地域医療連携室直通) FAX:0166-22-8287

E-mail:renkei@asahikawa.jrc.or.jp